



アサガオに黄色い花はないの

花の色は、入っている色素で決まる

アサガオの花の色は、青、紫、赤、ピンクなどが多いものです。これは、アントシアンという色素の色で、ほんの少しの成分のちがいで、青から赤へ、色のぐあいに変化します。

このほかに、アサガオの花は、ほとんどの植物がもっている、うすい黄色のフラボノイド系色素などももっています。けれど、ヒマワリの花やニンジンのような、こい黄色やオレンジがかった色の色素である、カロチノイドは、もっていません。ですから、黄色いアサガオの花は、ありません。黄色いアサガオの花をつくるのは、研究者たちの夢ですが、まだ、実現していません。

青い色のバラの花とか、黒い色の花をつくるのは、研究者や園芸関係者の夢ですが、これも、まだ、みんながみとめるようなものは、できていないようです。

江戸時代には、黄色いアサガオがあった？

日本に、中国からアサガオが伝えられてきたのは、奈良時代のことです。その後、江戸時代に、たいへんなアサガオブームが、2回もありました。今ある、花が大きくて美しいアサガオは、この江戸時代に、生まれたものです。

この江戸時代の園芸書には、黄色い色のアサガオが描かれています。そのころ、黄色いアサガオがあったのかもしれませんが、でも、今は、黄色いアサガオは、残っていません。

(監修・中山 周平)

